東北大学実践宗教学寄附講座ニュースレター

Department of Practical Religious Studies
Graduate School of Arts and Letters
Tohoku University

第12号　2017年11月1日

目次

第11回臨床宗教師研修報告 ・・・・・・・・・・・・ 5頁
第11回臨床宗教師研修受講者の声 ・・・・・・ 6-9頁
臨床宗教教養講座スクーリング報告・・・・・・ 10頁
資格認定集中コース・・・・・・・・・・・・・・ 10頁
第12回臨床宗教師研修 in 熊本の開始・・・・・・11頁
各地の臨床宗教師会の動向 ・・・・・・・・・ 12-17頁
活動報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18-19頁

愛知学院大学の臨床宗教師養成講座
引田弘道・・・・・・・・・・・・・・・・・・2-3頁

大正大学臨床宗教師課程について
曽根宣雄・・・・・・・・・・・・・・・・・・3-4頁

一般社団法人となった日本臨床宗教師会による「認定臨床宗教師」の資格制度の概要が先頃発表された。第１回の認定が行われるのは2018年3月になる見通しである。臨床宗教師という言葉が世に出て以来、常に懸案となってきた資格制度が、この時期に来て実現した背景には、臨床宗教師の養成講座が全国の諸大学機関に設置され、各地の臨床宗教師会の協力によって継続的な教育と研修の機会が維持できるようになったことがある。

資格についてはさまざまな考え方があり、医療現場で活動するためには臨床心理士のような水準の教育と資格認定の仕組みが不可欠であるという立場もあれば、反対に、宗教者であること以外に資格など不要で、個々人が必要だと考える活動を自由に展開すれば十分だという立場もある。日本の宗教状況の実態に即した資格制度のあり方については、なおも検討を重ねていくべき課題であるが、今般発表された資格制度は、臨床宗教師の数を増やしていくという点から見れば、慎重で抑制的な姿勢を表現したものとなっていると言えるだろう。

まず、臨床宗教師となるには、「宗教者」でなければならず、それを示すための証明書と保証人が必要である。次に、大学機関等で所定の研修を修了し、継続研修に参加していることが必要である（一定の臨床経験を持つ「先駆者」はこの限りではないが、実績を保証する推薦人が求められる）。そして、臨床宗教師倫理綱領とガイドラインを遵守する誓約書を提出しなければならない。これは端的には、ケア対象者を傷つけない、布教を目的としないのはもちろん、価値観の押し付けをしないという宣言であり、これに違反した場合は資格を失う。倫理の徹底が臨床宗教師のアイデンティティにとって極めて重要であることが示されている。

資格はさまざまな現場に出るための方便でもあるが、ケアの「力量」を維持し、向上させる機会を実質的に担保するものでもある。縄張り意識や損得勘定を離れて、多様な人々が支えあう社会の実現に資するものとなることを願っている。制度の詳細については日本臨床宗教師会のHPから閲覧できるので、宗教者だけでなく、多くの方々に関心を持っていただきたい。

2017年11月　実践宗教学寄附講座

愛知学院大学の臨床宗教師養成講座

愛知学院大学教授
引田弘道

愛知県日進市に本部をおく愛知学院大学は、禅宗の一派である曹洞宗により創設された学園である。明治初期に曹洞宗専門支校として発足した当学園は、建学の精神として「行学一体　報恩感謝」を掲げ、約12000名の学生の教育に当たっている。この建学の精神を具現化すべく、愛知学院大学は寺院子弟養成の任を担う文学部宗教文化学科はもちろんのこと、心の問題を扱う心理学科、歯科の立場から医療を実践する歯学部や薬学部、ビジネス社会での人々の幸福を実現する商学、経営学、経済学、法学の各学部、健康管理を行う健康科学科と健康栄養学科を順次設置してきた。総合大学、特に医療関係の豊富な教授陣の知識を活用して、仏教の慈悲の精神を実践するのが、本学の「臨床宗教師養成講座」の狙いである。

平成29年度、文学部の上に位置する大学院文学研究科宗教学仏教学専攻にこの「臨床宗教師養成講座」が開設された。禅学・仏教学という伝統的な学問に加えて、様々な問題を抱える現代仏教に宗教者としてどう取り組んでいくかを考察する。宗教者はとかく自身の宗教的知識・体験を相手に伝えるのが常であるが、臨床宗教師は反対に、相手の悩み・苦しみを「傾聴」することが求められる。相手の気持ちや思いに耳を傾け、相手のことをすべて受け止め、寄り添うことが、心に穏やかさや静けさを取り戻すことにつながる。宗教者としての幅を広げ、新しい側面から社会に貢献することを目指してほしいとの願いから、本講座は開設された。講座の修了者は、被災地といった特殊な環境にとどまらず、特別養護老人施設、グループホームなどの福祉施設、病院、老人保健施設などの医療機関、在宅介護・医療などでの活躍が期待されている。

開講科目は、大きく座学と実習に分かれる。座学では宗教学・心理学・医学・歯学などを本学の教授陣が教え、さらにロールプレイ、グリーフケア、会話記録検討などを東北大学から講師を招いて行い、総合的にスピリチュアルケアの方法を学ぶ。いっぽう、実習科目では、学外に足を運び、高齢者施設で100時間、さらに病院の緩和ケア病棟などで100時間の現場実習を行う。

座学は、3タームの集中講義からなり、1タームで毎日4時限の講義を行う。1時限は実際には90分間の講義となる。

第１回のタームは8月末に４日間開催する。開講科目は以下の通り。科目名は「　」で示す。（　）内は時限数。

第１日：「オリエンテーション」(1)、「現代社会と宗教」(2)、「グリーフケア」(3)、「医療における臨床宗教師の意義(1)」(4)

第２日：「臨床宗教師の理念と倫理」(2)、「グループワーク（死の体験）」(3)、「グループワーク（傾聴）」(4)

第３日：「ロールプレイ(1)」(1)、「ロールプレイ(2)」(2)、「臨床宗教師とスピリチュアルケア(1)」(3)、「臨床宗教師とスピリチュアルケア(2)」(4)

第４日：「福祉施設における歯科医療と臨床宗教師の意義」(1)、「医療における臨床宗教師の意義(2)」(2)、「学外実習のこころ構え(1)」(3)、「学外実習のこころ構え(2)」(4)

第２回のタームは12月中旬に４日間開催する。開講科目は以下の通り。

第1日：「宗教間対話の必要性(1)」(2)、「宗教間対話の必要性(2)」(3)、「宗教間対話の必要性(3)」(4)

第2日：「臨床心理学(1)」(2)、「臨床心理学(2)」(3)、「臨床心理学(3)」(4)

第３日：「死生学(1)」(1)、「死生学(2)」(2)、「死生学(3)」(3)、「日本人の民間信仰」(4)

第4日：「医療と宗教的ケア(1)」(1)、「会話記録検討(1)」(2)、「会話記録検討(2)」(3)、「会話記録検討(3)」(4)、「学外実習のこころ構え(3)」(5)

第３回のタームは翌年の３月初旬に４日間開催する。開講科目は以下の通り。

第１日：「生命倫理学(1)」(1)、「生命倫理学(2)」(2)、「生命倫理学(3)」(3)、「医療と宗教的ケア(2)」(4)

第２日：「宗教心理学(1)」(2)、「宗教心理学(2)」(3)、「宗教心理学(3)」(4)

第3日：「高齢者歯科医療と地域連携(1)」(1)、「高齢者歯科医療と地域連携(2)」(2)、「精神医学と臨床宗教師の役割(1)」(3)、「精神医学と臨床宗教師の役割(1)」(4)

第4日：「会話記録検討(1)」(1)、「会話記録検討(2)」(2)、「会話記録検討(3)」(3)、「総括」(4)

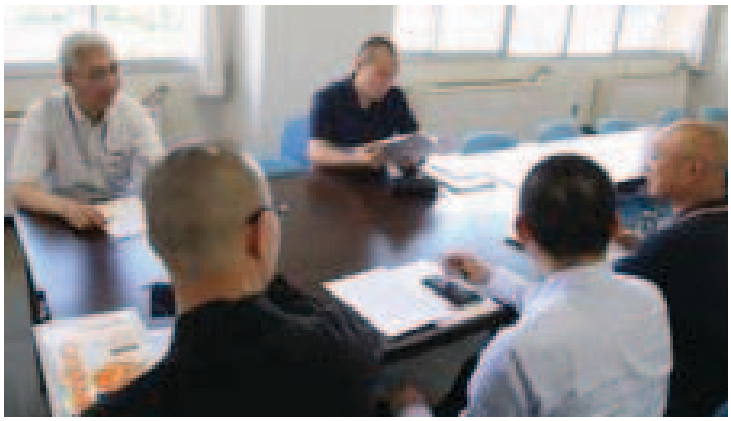
本講座を受講できるのは、曹洞宗の僧籍をもち、大学を卒業したものに限定される。学部が仏教と関係のない場合は、たとえ僧籍があっても、仏教の基礎知識習得のため、学部開講科目を事前に履修するよう指導する場合もある。

平成29年度は、面接の上、4人の受講者を決定した。4人のうち、正規生は1人、聴講生は3人。年齢は、最高年で60台前半が一人、30台後半が二人、最後の一人が20台後半で、僧侶としての経験が豊かな者ばかりである。ところで、本講座を聴講している愛知学院大学の学生と話すと、彼らの関心は臨床宗教師とはボランティアなのか、僧侶しての新しい糧なのかということにあった。またこの臨床宗教師としての資格が、今後日本でどの程度効果をもつものとなるかも彼らの大きな関心事である。タイ、スリランカといった上座仏教圏ばかりではなく、台湾、中国本土、韓国などの大乗仏教の国とも異なり、日本仏教は妻帯を許しており、出家教団を標榜しながらも、実際のところは個別の寺院単位で生活の糧を稼ぐ必

要がある。そうしないと、師から弟子へという名のもと、実際は親から子へという法灯の相続が困難となってしまう。そのため、この臨床宗教師をあらたなビジネス・モデルと理解しようとする動きもある。台湾の慈済会のように、修行に専念する尼僧集団とボランティアによる心の浄化を求める在家集団の四大志業八大脚印の活動とは異なり、日本の臨床宗教師は宗教者の生きる糧を模索する必要がある。最近、この問題が国会で取り上げられた。どうすれば医療チームの一員として臨床宗教師が病院で正式に受け入れられるようになるのか、国としての検討が始まりつつあると言えよう。

また、日本では戦前教育の反省から、宗教に対するアレルギーが強いことも台湾やタイなどの仏教国の事情と大きく異なる。公共空間では宗教師としての装い、勧誘はしないというのも、日本人の宗教アレルギーを緩和するための苦肉の策であろう。さらにオウム真理教の事件も日本人が宗教を遠ざけようとする傾向に拍車をかけた。ただ最近の日本人がまったく宗教嫌いかというとそうではない。霊的存在、パワースポットなどに関心を持つ若者が多いのも事実である。愛知学院大学の学生で特に宗教とは無縁であっても、宗教現象に関心を持つ者は多い。宗教家はもう少し自信をもって社会活動に貢献してもよいのではなかろうか。

日本の社会では従来、檀家制度がソーシャル・キャピタルとして大きく貢献してきた。しかし、最近では、少子高齢化、人口の都市集中による地方の過疎化により家制度を基盤とした宗教の果たす役割が低下しつつある。地方の過疎化は寺の存在意義を失わせつつあり、現在7万7000ヶ寺中、約2万ケ寺は住職のいない無住寺院となっている。都会では、孤独死が目立ち、葬儀を出さないまま荼毘にふす「直葬」も増えてきつつある。家族の崩壊、地域コミュニテイーの希薄化が都会の大きな問題となっている。このような状況のなか、臨床宗教師が宗教・宗派の枠を超えて在宅医療などで医師や看護師と協働し、人々の救済に努力することが大いに求められることとなろう。（ひきた・ひろみち）



大正大学臨床宗教師課程について

大正大学仏教学部准教授
臨床宗教師課程主任
曽根宣雄

◇プログラム開設の経緯

東北大学によって、開講された臨床宗教師課程については、仏教学科の専任教員の間でも常に注目されており、これまでに話題となることも多かった。大正大学は三宗四派（天台宗・真言宗豊山派・真言宗智山派・浄土宗）を設立母体とすることもあり、宗派の垣根を越えて活動していくという点に魅力を感じると同時に、大学の設立背景を考えるならば大正大学こそが関わって行かねばならないという声も少なくはなかった。

実際に動き出したのは、私が平成27年12月に林田康順仏教学部長と勝野隆広仏教学科長に臨床宗教師養成課程の開講について相談してからであった。その際に、私と勝野学科長で大枠について整理し、提案する方向で話がまとまった。それから改めて資料を収集し直し、勝野学科長と随時打ち合わせを行った。そして平成28年３月の専任会仏教学科の運営委員会において臨床宗教師養成課程の開講を目指したい旨が了承され、4月の仏教学科の専任会において正式に提案し、翌５月の専任会において養成課程設立に向けて活動して行くことが了承された。その後学長室会議に提案し、次年度開講を目指して詳細を検討するように指示を受けた。

具体的なカリキュラムについては、非常勤講師として招聘を予定していた大河内大博先生に相談し、この間、随時教務課と開講に向けての折衝を行った。翌6月には開講科目及び担当教員についての原案を教務課に提出した。そこでは①日本の在宅ホスピス活動の先駆けである内藤いづみ医師と当初より臨床宗教師に関わっている大河内大博先生を新規に招聘すること。②他学科開講科目との調整は教務課に依頼すること。③大学のBSR通信に来年度の開講を目指す旨を掲載することが確認された。

７月に教務課より大学院の資格講座にすべきであるという指示を受け、10月の大学院委員会において開講科目及び招聘教員について正式に承認された。その後、11月～12月にかけては、実習・受講者・選抜方法等について詳細に検討し、初年度は、三宗四派の僧侶資格を有する大学院生で希望する者のみを養成対象とすることを確認した。なお、内藤いづみ先生は大正大学の客員教授として、大河内大博先生は非常勤講師としてお迎えすること

になった。平成29年2月14日には、第１回臨床宗教師養成課程運営委員会が開催され、大正大学臨床宗教師養成課程規程が承認された。

◇対象者及び人数

大正大学の臨床宗教師課程は、設立宗派（天台宗・真言宗豊山派・真言宗智山派・浄土宗）及び提携している時宗の僧階取得者で大学院生を対象としている。定員は７名であるが、臨床宗教師課程の選抜は、小論文と面接によって別途行っている。来年度からは、大学院生を優先しながら、定員の枠内で上記の僧階取得し希望する者も対象とすることになっている。

◇プログラムの枠組み及び内容（期間、授業内容、実習内容、時間数、担当者）

大正大学における臨床宗教師課程は、仏教学研究科の資格講座となっている。科目の開講は大学院であり、他の研究科の開講科目も含め一年間で資格を取得できるようになっている。開講科目は別表の通りである。

「応用仏教学特論・応用天台学特論・応用真言学特論・応用浄土学特論」は、それぞれ所属宗派の科目を履修する。（真言学がＡ～Ｄとなっているのは、豊山派と智山派の区分けのため）これは、従来より開講されていた科目であるが、担当する教員には各宗派の死生観を中心とした講義となるように依頼している。なお、三宗四派の特色を生かすために、他宗の死生観の講義を受ける回を設けている。担当者は「応用仏教学特論Ａ・Ｂ―神達知純先生、応用真言学Ａ・Ｂ―元山公寿先生、応用真言学Ｃ・Ｄ―堀内規之先生、応用浄土学Ａ・Ｂ―曽根宣雄」である。

「宗教学特論Ｂ」は、臨床宗教師養成のために文学研究科（宗教学）で開講していただいている。内容は、他宗教間対話及び公的空間における宗教のあり方、信教の自由と政教分離について等の講義であり、担当は村上興匡先生である。

「仏教ソーシャルワーク研究」は、人間学研究科（社会福祉学）での開講科目である。ソーシャルワーク理論と仏教福祉思想の位置づけを中心にした仏教福祉に関する講義であり、担当は石川到覚先生である。

「人間学特論Ａ・Ｂ」は、ターミナルケア論及びケアのあり方等についての講義であり、担当は在宅ホスピス医であり、本学客員教授の内藤いづみ先生である。

「臨床宗教演習Ａ・臨床宗教演習Ｂ」は、本学非常勤講師の大河内大博先生の担当である。演習Ａは実習前の講義であり、演習Ｂは実習後の講義である（いずれも集中講義）。また、実習の期間中は月に一度スーパービジョンを行っている。

実習時間は、計６０時間である。現在は、豊島区社会福祉事業団の老人福祉施設である「菊かおる園」「風かおる園」「アトリエ村」での実習の他、日本臨床宗教師会理事である池内龍太郎氏と関東臨床宗教師会事務局長の井川裕覚氏にお願いし「東京café de Monk」においても実習をさせていただいている。また、後期は月に一度大正大学で行われる一般参加型のイベント（法要を含む）である「花会式」にも参加し傾聴の体験を積んでいる。

【履修科目】

	授業科目の名称		単位数又は時間数 必修	選択	自由	備考
授業科目の概要	臨床宗教師養成課程					
	基礎科目	応用仏教学特論Ａ		2		２科目４単位選択必修
		応用仏教学特論Ｂ		2		
		応用天台学特論Ａ		2		
		応用天台学特論Ｂ		2		
		応用真言学特論Ａ		2		
		応用真言学特論Ｂ		2		
		応用真言学特論Ｃ		2		
		応用真言学特論Ｄ		2		
		応用浄土学特論Ａ		2		
		応用浄土学特論Ｂ		2		
		宗教学特論Ｂ	2			２科目４単位必修
		仏教ソーシャルワーク研究	2			
	専門実践科目	人間学特論Ａ	2			５科目１０単位必修
		人間学特論Ｂ	2			
		臨床宗教演習Ａ	2			
		臨床宗教演習Ｂ	2			
		臨床宗教実習	2			

※２単位＝９０分×１５回

◇現状と今後の展望

開講一年目ということもあり、まだまだ試行錯誤の状態である。今後は、受講生達の感想や意見を聞き改善していきたい。また、在宅ホスピス医である内藤いづみ先生を招聘できたことは、受講達にとって非常に有益であった。やはり、実際の在宅ホスピス医の講義には重みがあり、受講生達は多くの事を学んでいる。なお、内藤先生より、受講者のモチベーションが素晴らしいという評価をいただいていることも付記しておきたい。

大正大学臨床宗教師養成課程設立にあたっては、東北大学の諸先生、龍谷大学の諸先生、また本学客員教授でもある島薗進先生より様々な御指導をいただいた。また、実際のカリキュラムの作成については、大河内大博先生に詳細にわたり何回も相談に乗っていただいた。心より感謝申し上げる次第である。さらには、本学の上田忠憲教務部長、渡邉篤教務課長、直接の担当である坂本大輔主任の多大なる協力なしには、開講することができなかった。あわせて感謝を申し上げる次第である。

今後は、三宗四派という特色を生かすことを念頭に、担当教員間で協議を行いより良い養成課程を目指していきたいと考えている。　（そね・のぶお）

内藤いづみ先生による講義風景

第11回臨床宗教師研修報告

研修データ
期間：2017/5/15-17, 6/13-14 , 7/18-20
場所：石巻市内復興公営住宅、石巻市曹洞宗統禅寺、仙台市浄土宗蓮光寺、東北大学、他
修了者：19名(うち女性5名)
宗派内訳：浄土真宗本願寺派、日蓮宗、真宗大谷派(2)、真宗木辺派、曹洞宗、天台宗(2)、高野山真言宗(2)、中山身語正宗(2)、浄土宗(2)、神社神道、立正佼成会、天理教、日本基督教団(2)
地域：北海道、岩手、山形、宮城、栃木、埼玉、東京、岐阜、滋賀、大阪、福岡、佐賀、熊本
年齢：26才～64才

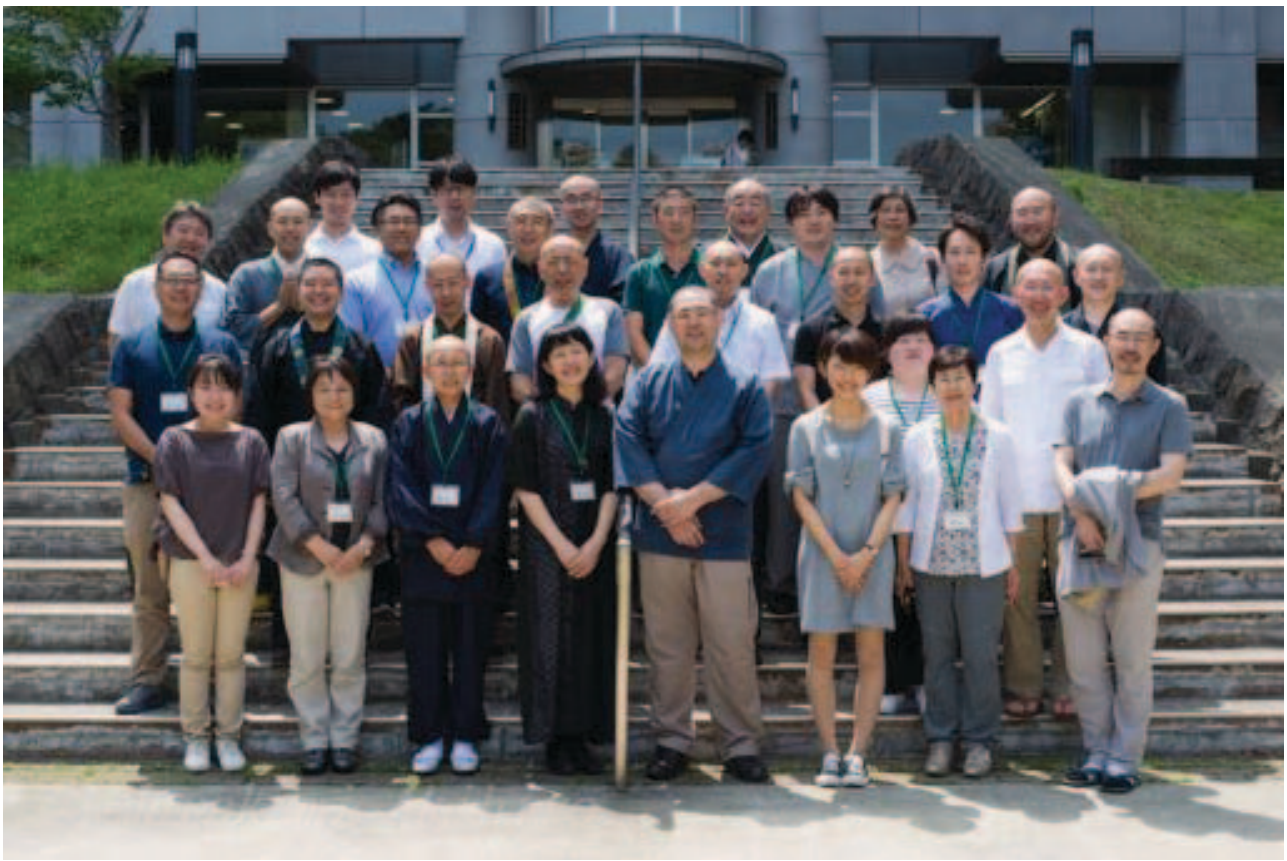
追悼巡礼（石巻市長面浦）

第11回臨床宗教師研修は、石巻市内の復興公営住宅で傾聴実習（カフェ・デ・モンク）を行ない、ほぼ前回同様のフォーマットで行われた。受講者は19名とやや多めで、宗教宗派のバラエティも豊かな研修となった。

これによって、第11回までの臨床宗教師研修修了者は、のべ171名となった。今回も曹洞宗統禅寺様（石巻市）、浄土宗蓮光寺様（仙台市）に会場を提供していただき、また、北海道東北臨床宗教師会の皆様のご協力を得た。ここに記して感謝申し上げる。

臨床宗教師研修各回の講義・グループワーク・実習の時間数・担当者・実習施設名等の詳細については、修了証書に記載されており、その内容は実践宗教学寄附講座ウェブサイトの記録・データのページに掲載しているので参照されたい。

復興公営住宅集会所での傾聴実習（カフェデモンク）



撮影・村上昭浩

研修受講者の声
（第11回臨床宗教師研修）

第11回臨床宗教師研修を修了した皆様のご感想を、研修最終日の振り返りのコメントを中心にまとめました。

淺枝泰淳（真宗木辺派）

3か月お世話になりました。いろいろな宗教の方と深くお話しする機会はあまりなかったのですが、とてもよい機会に恵まれ、他の宗教の方に対して親しみ深い目でみられるようになりました。これは（同期の）皆さんだからかもしれませんが。

また、いろいろなケアを教えていただき、日頃の（寺の）法務の中で活かせることがたくさんあると感じております。

今、九州臨床宗教師会の先輩方とともに被災地のボランティアにも参加させていただきながら、地元北九州にてボランティアとして受け入れて下さる病院(緩和ケア病棟)にご縁をいただきました。自坊のご門徒さんはもちろんのこと、悲嘆を抱える様々な方々とともに苦悩できる存在であり続けるため、今後も学びを深めてゆきたいと考えております。本当にありがとうございました。

小林　茂（日本基督教団）

赴任しているえりも町の教会で、佐野住職さんとカフェデモンクinえりもの活動をはじめております。ひきこもりや精神疾患を抱えた方々が中心ですが、そのような場でカフェデモンクがどのように活かされるのか、同僚の精神科チームと少しずつ、じっくりと取り組んでいきたいと思います。

普段は牧師／心理士として仕事をしていますが、宗教者として病院と関わったのは実は今回の実習が初めてで、今までと全然違った一面を感じることができました。それだけに今後は、牧師としての宗教的ケア、臨床宗教師としてのスピリチュアルケア、心理士としてのメンタルケアを、それぞれの有効活用を意識しながら、その場の必要に応じて役立てていけるように、取り組み頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

妻鳥紘明（曹洞宗）

お疲れ様でした。参加当初は、寺を取り巻く環境が経済的に苦しくなっていく中での打開策として、臨床宗教師の資格もいいな、それで雇用もあればいいな、といった淡い期待ももっていましたが、３か月間の研修を通じて、そういうことではなかったな、とつくづく思っています。

自分の寺の状況をもう少し真摯に見つめて、檀家さんに対してできることが実はまだまだあるのではないか、どちらかというと外で活動するというより、まず檀家さんへのサポートやケアを充実させることに、この研修は非常に活かされると思います。また臨床仏教師の方とのご縁もあり、米沢の緩和ケア病棟でのボランティア活動に取り組んでいきたいとも思っています。どうもありがとうございました。

宮村妙洋（日蓮宗）

念願が叶いつつある段階で、とても嬉しく思っております。十数年前に長岡西病院のビハーラ活動を知って以来の、さらには東日本大震災後に立ち上がったカフェデモンク、岡部先生の心の相談室、そして臨床宗教師を、これだ！と思って以来の念願です。去年やっと僧侶としての資格も得て、臨床宗教師という夢へのステップを歩んできていると思います。

医療従事者として相談員もしてきましたが、臨床宗教師としての傾聴とその記録は全く違いました。今後の課題として、自分の内面や感情をもう一回見つめ直すことから取り組んでいきたいと思います。今回の研修で勉強させていただいたいろいろなことはありがたく、これからの活動につなげていきたいと思います。ありがとうございました。

斎藤正美（浄土真宗本願寺派）

全く知識がないまま研修に参加し、今回いろいろな宗教・宗派の方々とお話やお勤めをさせていただきました。まずそれが他では得難くかけがえのない大きな勉強になりました。

受講申込の段階からずーっと問われているのは、自分の「信心と覚悟」だと思っていました。

自分をもっともっと見つめ直す。ということで3か月間、このことは少しは出来たかと思いますが、これからもずっと、このことは私に求められていくことと思います。

せっかく皆さんと知り合えて、いろいろな知識を得て体験もさせていただきました。今後は、この知識や体験を具体的に活動の場に活かしていきたいと思っています。

研修の機会を与えていただいた先生方、スタッフの皆さんに心から感謝を申し上げますと共に、同期の皆さんにも大変お世話になりました。

紙面をお借りして改めて感謝を申し上げます。どうもありがとうございました。

久連松隆導（中山身語正宗）

まずは講師の先生方、スタッフの皆さん、そして研修生の皆さん、3か月本当にお世話になりました。ありがとうございました。今回この研修に参加させてもらって、まず一番気づいたことは、相手のことを理解するには自分自身のことをしっかり理解しておかなければならない、これが大事だということを学ばせていただいた気がします。それを今後どう生かすかということはまだ手探り状態ではありますが、まず自分のところの末寺に来られる檀家さんの悩み・苦しみにしっかり寄り添えるよう、全身で聴く、というスタイルで臨んでいきたいと思います。本当にお世話になりました。

楠　直樹（真宗大谷派）

この3か月間お疲れさまでした。研修を受ける前よりも、自分の近くの方や目の前の方がもしかしたら心身に痛みを持っておられるかもしれない、ということをより感じ考えるようになったと思います。その方を自分は救うことができないかもしれないが、だからといってそこに座って動かないのではなく、それでも何とか支えてあげたいと立ち上がって一歩踏み出す、そのスタートラインに立てたことが、研修の成果かなと思います。

今後は、門徒さんと接するなかで、医療機関への入院・介護施設への入居などで断たれてしまうような人間関係を何とかしていけるよう、この経験を活かしていきたいと思います。鍼灸施術時の傾聴活動や、実習先のボランティア活動も定期的に行っていきたいと思います。ありがとうございました。

〈追記〉

研修が修了し3ヶ月が経ちました。現在はボランティアでの臨床宗教師活動の他、8月はFU研修に参加。9月からは種智院大学臨床宗教師研修へスタッフとして同行させていただいています。。。時にはどしっと座り動かず痛みを持っておられる方のサインを見逃さない姿勢も大切なことだなと勉強させていただきました。

これからも皆さんと共に学び活動していけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

山隈由貴子（中山身語正宗）

3か月間ありがとうございました。今回の研修で一番感じたのは、自分自身が他人の評価を気にし、自分はこうあるべきという思いが非常に強い自分だったのだということでした。自分らしさがなければ相手を受け止めることができないということを学ばせていただきました。最初は何を言われるのだろうかとすごく苦痛でしたが、いろいろと言っていただいたからこそ、今では目の前が明るくなった気がしています。

これからは、本山にお参りに来られる方の悩みなどを、自分らしく真摯に受け止めて活動していきたいと思います。ありがとうございました。

及川寿美子（神社神道）

3か月間本当にありがとうございました。一番良かったと思うのは、自分の内面のクセとか会話の時の短所・欠点・性質が、チクチクとほじくり出されるように見えるようになってきたことです。もっと精神的な勉強が必要と思いますが、今後これを活かして、今お世話になっているカフェデモンクで活動していきたいと思います。やはり傾聴の難しさを正直言って感じましたので、フォローアップ研修などでもっと勉強して、独り立ちできるように頑張っていきたいと思います。

また、参加された方々それぞれの宗教に対する勉強の深さ、自身の勉強不足も感じました。自社の活動とともに神社神道について更に勉強していかなければならないと思いました。研修を通じて、自分自身がフィルターを通されたようで、自分のケアにもなった気がします。今後もまたよろしくお願いします。どうもありがとうございました。

土屋千裕（天理教）

この研修を通して感じたことは、人様に対して何かの助けになることをさせて頂こうと思うならば、まずは自分の周りをしっかりと確固としたものにすることが肝要であるということです。まず自分の家庭やご近所様、信者様にしっかりと向き合ってお互いのことをよく知り、慮ることを自分はもっとしていかないとい

けないと思わされました。これまではとにかく新しい方に教えを知ってもらいたいという独りよがりの思惑が強かったのですが、人様に応対するのに、まずは旧知の信者様に対して本当に寄り添っていくことができていなければ、初めてお会いする死を目前としている人々に何ができるのか、ということを気付かされた思いです。

現在は一般社会の仕事の比重が大きい生活をしていますが、少しでも信者様、または何れの信仰も無い方で我々のような臨床宗教師の存在を必要とされている方のニーズを捉えてお役に立てるよう心がけてまいります。皆さん、お世話になりました。

米本智泉（高野山真言宗）

3か月間お世話になりました。ありがとうございました。自分の内面や本当の自分を知ることが一番大事で、少しだけ知ることができた、というのが研修の結果です。自分で自分は前向きでポジティブの塊みたいなものだと思っていましたが、研修や実習の場で、実はそうではなくて、ネガティブで暗い面、泣きそうになるくらい嫌な、見たくない面がたくさんあるとわかりました。自分を知っていくことで、目の前の人に対応する言葉や雰囲気が少し変わっていくのかなと思います。

まだまだだと思いますので、これからも継続して勉強して、自分というものをさらに深めていきたいと思います。今後は、田舎ですけども地元で檀家さんや地域の活動をしていければと思います。皆さんお世話になりました。一緒に頑張りましょう。ありがとうございました。

佐藤了眞（天台宗）

3か月間どうもありがとうございました。自分の宗派の同業者は別にして、家庭とか檀家さんとか、みなさんの話がだいぶ聴けるようになってきました。だいぶ。そうすると関係性がだいぶ変わるんですね。非常にそういう意味で勉強になりました。自分の心を見つめる、ということは皆さんも仰っていましたが、私は前から見つめているつもりだったのですが、さらに見つめたいと、日々、思っております。

今後は、まだちょっと研修が続くものですから、さらに、まだまだ、まだまだ未熟なので、勉強させていただきたいと思います。いろいろとお世話になりました。ありがとうございました。

菅原　耀（真宗大谷派）

お疲れさまでした。研修を受ける前と後で、自分の内面と向き合う時間がすごく増えて、逆に言うと、それまでは全然見ていなかったのがわかり、反省でもあり喜びでもあります。人と接したときに、その人のこと（話の内容や顔色）は見ていても自分のことは全然見ていなかったのだと思い、いい方向に行っているのかはわかりませんが、自分のなかに明らかに変化があったというのが喜びです。

今後は、たくさんいらっしゃる臨床宗教師の方々と一緒にカフェデモンクや勉強会などで頑張っていきたいと思います。地域の問題もいろいろありますが、自分の立ち位置をある程度理解しないと連携というのも難しいのかなと思っていますので、今回をとおして問題意識が出てきたことはよかったなと思います。どうもありがとうございました。

大島慎也（浄土宗）

3か月間どうもありがとうございました。傾聴にこれだけニーズがあるということに一番驚きました。患者さんが、また来てね！次いつ来るの？と言って喜んでくれる。わたしは歯医者さんをやっていますが、こんなに喜ばれたことはないんですよ。痛いのを治すよりも、話を聴いてあげる方がずっと歓迎されるんです。心の癒しってそれだけ大切なことなんだな、傾聴活動ってすごいな、いい活動だなって素直に思いました。ずっと続けていきたいなと思っています。

10年後20年後に宗教自体がどうなっていくのか、その一つの答えが臨床宗教師なのかなとも思っています。今後は、できれば医療現場に潜り込んで、歯医者と臨床宗教師を時々で使い分けながら、一生続けていこうと決意を固めております。皆さんどうもありがとうございました。

中村浩士（立正佼成会）

3か月間ありがとうございました。日頃、宗教者はどうなっていくのか、どうあるべきかという課題を持っていましたが、可能性や希望が持てた3か月だったと思います。その希望がさらに広がるためにも、一人ひとりの苦悩に寄り添う本来の宗教者としての役割を改めて感じることとなった機会が、私にとって大きな成果であったと思います。さらに、私どもは、すべてのものごとの関係について教えていただいていますが、教えの如く、今回の出会いをさらに広め、より高く個人の成長も追求していきたいと思いました。現在、私は関西に居りますが引き続き多くの方々と、ご縁を持てることができれば幸いです。皆さんありがとうございました。

花村みほ（日本基督教団）

3か月間ありがとうございました。他の宗教の方々と一緒にご飯を食べてしばらくの時間を過ごすということは初めてだったのですが、とっても希望のようなものをいただきました。こうやって皆さんが、他者の人生や痛みに寄り添うというか、仕えていこうとされている方々がこんなにいるんだな、と。キリスト教の世界というところしか知らなかったんですけど、いいつながりをいただいて、これからも支え合ったり助け合ったりしていけたらいいなと思います。

どうやって死に瀕した人に寄り添っていけばいいか、というのが問いだったんですけれど、技術的なものではないんだな、むしろ無力さということ、無力なままでいいんだということをいま感じて、そこが出発点じゃないかと思っています。そこから次の一歩を進めたいと思います。またよろしくお願いいたします。

菊地祐子（高野山真言宗）

3か月間ありがとうございました。3か月をとおして自分でもちょっと変わったなと思って、母も3か月前と違って安定感があるよねと言ってくれて、それだけでもよかったなと思います。自分は人がいとおしくて、大事で、好きでたまらないんだ、ということをすごく感じました。皆さんいろんな方に話を聴いていただき、それで自分を見つめることができて、そして信心も深まって、このまま宗教者として人生を終えられたら（まだ終えていませんが）嬉しいなと、本当に宗教者でよかったなと感じました。

自分の課題として、職場の認知症の方のそばに自分の心を置くという作業を職場で続けていきたいというのと、またそういうボランティアが続けられたらいいなと思います。ありがとうございました。

古林俊晃（浄土宗）

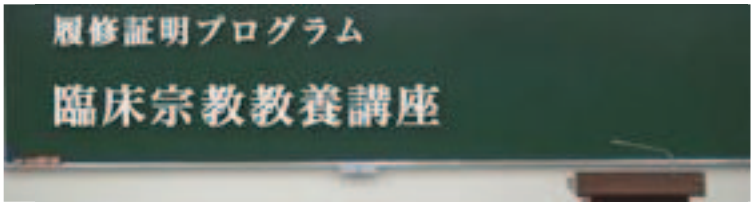
皆様いろいろとお世話になりました。浄土宗の僧侶としての立場と、一宗教者としての立場や振る舞い方の違いなどを学ばせて頂いたと感じております。講義も刺激的で、考えてもいなかった多くの事を勉強させて頂きました。傾聴ですが、私の場合は、理屈で考えてしまいがちで、心がなかなか先に動かないところがありました。先生方からも何度となくご指摘を受けながら、段々、少しずつ、こういうことなのかと理解してきたように思います。これからも心の動きを大切に、意識して研鑽していこうと思います。

先生方や皆様とはご縁があり、今後とも長いお付き合いをさせて頂ければと思います。これから臨床宗教師として活躍していくために、研修会などを通じて、また皆様とお会いし、一緒に切磋琢磨していきたいと思います。これからもどうぞよろしくお願い致します。

千田明寛（天台宗）

3か月間ありがとうございました。研修では何かを得たというよりも、自分に自信をなくした3か月間でした。でもそれは決して悪い意味ではないと思っています。実習で緩和ケア病棟の40人の患者さんと接して、叱咤激励もされましたし、多くの方は亡くなってしまわれましたが、皆さんに感謝しています。傾聴活動では、話のテンポを止めてしまったり、自分の至らなさ、未熟さを痛感したところです。沢山いらっしゃる臨床宗教師の先輩の会話等を聴いていると、学ぶべきものがあります。

自信を無くしましたが、寺の中にいたら経験できなかったことでしたので、研修を受けられて本当に良かったと思います。月2回のカフェデモンクにお誘いいただいたので、継続して参加して、先輩方と一緒に学んでいけたらなと思います。ありがとうございました。



■スクーリングの実施

○2017年8月21-22日、履修証明プログラム「臨床宗教教養講座」のスクーリングが行われた。受講者32名が仙台市の東北大学に集まり、インターネットによる前期の講義を踏まえて、グループワーク等のプログラムに参加した。既報の通り、このプログラムは宗教者以外にも開かれており、受講者には医師、看護師などケアに関わる職業に従事する人が多い。平均年齢は47歳ほどである。

プログラム

１日目

オリエンテーション・自己紹介

ディスカッション１～５（前期各科目担当者）

ワーク１「死生観について語り合う」(谷山)

ワーク２「死の体験シミュレーション」(谷山)

ワーク３「18歳の決断、誰のための死なのか」（大村）

ワーク４「エンディングノート」(大村)

ワーク５「ロールプレイ１（終末期）」(谷山)

２日目

ワーク６「ロールプレイ２（事前指示書）」(谷山)

ワーク７「グリーフケアと宗教」(谷山)

ワーク８「瞑想」(大村・高橋悦堂)

講義「セルフケア」(大村、谷山)

それぞれに現場を持って活動されている方が多いためか、受講者のモチベーションは高く、最初硬かった表情もすぐに和らぎ、熱の入ったディスカッションが行われていた。

すでに後期授業が始まっており、二月に２回目のスクーリングがある。修了式は三月の予定である。2018年度から開講される「臨床宗教実践講座」を引き続き受講した受講者は、臨床宗教師（宗教者のみ）とスピリチュアルケア師の資格認定の申請要件を満たすことになる。この「臨床宗教教養講座」は来年度、第２期が開講される予定である。詳細は実践宗教学寄附講座のHPなどで告知するので関心のある方はご覧いただきたい。

資格認定集中コース

■全体会の実施

○2017年10月2-3日、　臨床宗教師研修「資格認定集中コース」の全体会が行われた。本コースは、臨床宗教師研修修了者を対象に、実習と振り返りを通してさらに学びを深め、日本スピリチュアルケア学会による「スピリチュアルケア師」暫定認定資格申請ができるように設置されたもので、実施は今年度限りである。

コース内容

７月　オリエンテーション

実習期間　32時間以上（会話記録作成）

10月　全体会

（会話記録検討・ロールプレイ・実践報告・個人面接）

実習期間　32時間以上（会話記録作成）

11月　全体会

（会話記録検討・実践報告・最終試験・修了式）

すでに各地の病院・福祉施設等での実習を始めている受講者13名が仙台市の浄土宗蓮光寺に集まり、グループワークや会話記録検討会等のプログラムに参加した。現場での活動経験についての実践報告をしていただき、日頃直面している課題や問題点についてディスカッションする機会も設けた。

受講者はいずれも東北大の臨床宗教師研修修了者であり、11期から引き続きの受講者が5名、その他3期、5期（2名）、6期、7期、8期、9期であった。

このコースは上述の暫定資格の申請期限に間に合うように開設されたものであるが、今後は日本臨床宗教師会による「認定臨床宗教師」の資格認定と更新とも連動しながら、各自の学びと研鑽のために各地でこのような研修の機会を確保していくことが課題となる。

第12回臨床宗教師会（in熊本）の開始

研修データ
期間：2017/10/17～
共催：九州臨床宗教師会
協力：熊本大学大学院社会文化科学研究科交渉紛争解決・組織経営専門職コース、熊本大学紛争変容・平和構築研究会
場所：熊本市東本願寺熊本会館、益城町内仮設住宅団地集会所、他
受講者：11名(うち女性5名)
宗派内訳：曹洞宗(2)、真宗大谷派、浄土真宗本願寺派、高野山真言宗、中山身語正宗(2)、立正佼成会、カトリック、神社神道、看護師

宮城県以外での初めての開催となった 第12回臨床宗教師研修が、熊本市でスタートした。熊本はもともと臨床宗教師研修の修了者が多く居住し、全国に先駆けてカフェデモンクの「支店」が開かれたという縁がある土地であるが、昨年来、大地震や集中豪雨が九州を襲ったことが今回の企画実現の契機となった。

すなわち、東日本大震災における被災者支援、その後の研修の蓄積から学んだものを被災者支援に関わる九州の方々に伝え、また新たな経験からこちらも学ばせていただきたいという思いがこの企画には含まれている。この研修開催にあたって、（公財）仏教伝道協会から助成金をいただいた。また、九州臨床宗教師会の方々のご尽力、熊本大学大学院社会文化科学研究科交渉紛争解決・組織経営専門職コース、熊本大学紛争変容・平和構築研究会のご協力をいただいた。各団体、また会場をお貸しいただいた東本願寺熊本会館に感謝申し上げる。

追悼巡礼（阿蘇大橋崩落現場）

この研修の基本的フォーマットは従来通りであるが、熊本での開催という事情による特色が生まれた。たとえば、講義「カフェデモンク」は、熊本地震後の傾聴カフェ活動の経験を踏まえて、吉尾天声さん（九州臨床宗教師会会長）に担当していただいた。追悼巡礼は熊本地震の被災地をまわり、傾聴実習においては。熊本地震の被災者の方々がお住まいの仮設住宅団地にうかがわせていただいた。

立野泰博さん、ミカ・モトサンチェズさんにSVをつとめていただき、倫理委員は緒方宏明先生（尚絅大学教授）、石原明子先生（熊本大学准教授）にお願いした。なお、受講者に非宗教者が含まれているが、臨床宗教師となれるのは宗教者のみであるというのは従来同様である。

臨床宗教師研修の地方開催はさしあたり今回かぎりの企画であるが、今後各地で大きなフォローアップ研修会などが会されていく時に必要となる各地域の宗教者や教育機関との提携に向けてのテストケースともなるだろう。研修は12月に修了式を行なって締めくくられる予定である。

追悼巡礼（南阿蘇村立野地区）

傾聴実習（カフェデモンク）

各地の動き

臨床宗教師会の活動報告

北海道東北臨床宗教師会

当会は今年2月26日に臨時総会を行い、金田諦應氏を会長とした新体制が始まりました。

今年の5月～7月には、東北大学実践宗教学寄附講座よりの要請を受け、第11期臨床宗教師研修に有志会員がスタッフとして支援をさせて頂きました。

また、6月には当会のホームページを開設することが出来ました。これからはこのホームページを当会情報発信の「窓」として、多くの皆さまに当会の活動の様子をご覧になって頂ければと思います。「北海道東北臨床宗教師会」にて検索してみてください。とても綺麗で見やすいホームページとなっております。

「心の相談室」から事業継承した、お弔い事業、カフェデモンク事業、電話相談事業も継続的に続けております。

当会の医療関係との連携では、爽秋会（岡部医院・岡部医院仙台）への臨床宗教師紹介、宮城県立がんセンターへの臨床宗教師紹介、岩手県立中部病院への臨床宗教師紹介などがあげられます。特に国公立の病院からの紹介依頼も多く、宮城・岩手の医療界へ臨床宗教師が少しずつ浸透してきていることを伺わせます。医療分野との連携をしっかりと行えるような体制づくりを今後より一層整える必要性を感じております。

9月28日には仙台市内ホテルにて、29年度総会を行い30名近い方に参加頂き、前年度事業・決算報告、新役員、本年度事業・予算案などを審議致しました。

引き続き、第三回一泊ＦＵ研修を行いました。こちらにも30名近い参加者に恵まれ、大村哲夫氏による「倫理ガイドライン」の講義、当会会員の奥原幹雄氏、吉田裕昭氏による実践活動報告などの座学を中心に、翌日はロールプレイ、会話記録検討などのグループワークを中心に行われました。このＦＵ研修の詳しい様子は上記のホームページをご覧になって下さい。

ＦＵ終了後に1時間ほどの時間を頂き、当会会長でもあり日本臨床宗教師会副会長、資格認定委員長でもある金田諦應氏と当会監事、同会事務局長であり資格認定委員である谷山洋三氏より、日本臨床宗教師会の臨床宗教師資格認定に関する報告が行われました。参加した会員より様々な質疑が出され会員の認定臨床宗教師資格に関する興味の大きさが伺えました。

今後も当会は「臨床宗教師」発祥の地にある組織としての意味を大事にしながら、全国各地域の臨床宗教師会の皆さんと共に連携して歩みたいと思っております。

北海道東北臨床宗教師会ホームページ
https://www.ht-rinshu.com/
北海道東北臨床宗教師会電話相談
フリーダイヤル（通話・相談無料）
0120-783-643 ナヤミ ムヨウ
【相談日】毎月第２・第４水曜日
【時　間】午後３時～午後９時
＊仙台地域を中心に3000部発行されている、初年向けサッカーマガジンに、電話相談の公告が掲載されました。サッカー少年だけでなく、保護者の皆さんを対象としております。

関東臨床宗教師会

■FU研修
○2017年4月14日（金）武蔵野大学
講師：小西達也先生
参加者：正会員16名、準会員３名、オブザーバー3名、合計22名
○2017年11月（予定）

■総会：2017年6月21日（水）上智大学18:45~20:30
出席者：正会員15名、準会員1名、オブザーバー2名、合計18名
島薗進先生、伊藤文雄先生、内野喜和子、大崎功、三善恭子、松島龍戒、佐々木瑞恵、木村天眞、永峯治寿、峯島秀暢、渡邊美由紀、南雲のどか、池内龍太郎、高橋一晃、中村博武、西郊良俊、木村雅恵、井川裕覚（順不同、敬称略）

■特別講演会：2017年6月21日（水）上智大学17:00~18:30
「グリーフケアと臨床宗教の歴史」講師：島薗進先生
*上智大学大学院実践宗教学研究科との共催

■役員会
平成29年5月18日（木）東京都内貸会議室
平成29年9月6日（水）東京都内貸会議室
平成29年10月4日（水）東京都内貸会議室

■イベント、傾聴カフェ等の開催実績
関東カフェ・デ・モンク＠上尾中央総合病院

原則 第１水曜日、第３木曜日
開催日：5月1日、5月18日、6月7日、6月15日、7月5日、7月20日、8月2日、8月17日、9月6日、9月21日、10月4日、10月19日
参加者：臨床宗教師、スピリチュアルケア師、音楽療法士、上智大学グリーフケア研究所実習生、ティーサービスボランティアなど。

■講演活動
○平成29年6月18日（金）埼玉県南部看護師長会総会・研修（川口総合病院）担当：井川裕覚
○平成29年6月10日（土）忙中閑クラブ特別講演会（埼玉県戸田市、川口市を中心とした医療者の勉強会）担当：井川裕覚

■報道の記録
○平成29年8月16日（水）フジテレビみんなのニュース
○平成29年9月19日（火）東京FMラジオ番組「OH! HAPPY MORNING」
電話出演：池内
○平成29年7月号　寺社NOW
代表の池内龍太郎さんが「一般社団法人 全国寺社観光協会」が発信している雑誌、『寺社Now vol.15号』に取材をしていただき記事になりました。
寺社NOWはこちら
http://jisya-kk.jp/activities/jisyanow.html
該当号は
http://jisya-now.com/wp-content/uploads/2017/08/jisyaNow15.pdf
となります。

中部臨床宗教師会

中部臨床宗教師会では、発足時から沼口医院と共に連携しながら活動をしている。活動の中心となっているフォローアップ研修会では、昨年と同様にアミターバ連続講座（以下、「連続講座」）と会話記録検討会を組み合わせた形式で開催している。講師の先生方には、会話記録検討会のスーパーヴァイズだけでなく、「医療と宗教（臨床宗教師）」や「生と死」をテーマにした連続講座が開催されており、今年度は全5回の予定となっている。連続講座には、臨床宗教師だけでなく、県内外の医療従事者や宗教者の姿もある。このように医療者と宗教者が一堂に会し、学びを深める機会となっている。

また、春季と秋季に開催されている沼口医院主催「偲ぶ会」には、共催として協力させていただいている。以下に、フォローアップ研修会、偲ぶ会、その他の活動報告をさせていただく。

■中部臨床宗教師会　第10回フォローアップ研修（第7回アミターバ連続講座）
○2017年6月3日（水）15時30分 ～ 20時00分
会場：沼口医院（メディカルシェアハウス・アミターバ）
　　1F多目的ホール及びカフェデモンクコーナー
参加者：9名
野々目月泉師(5期)、田中至道師(5期)、坂野大徹師（7期）、長島美稚子師（8期）、釜田隆介師（9期）、桐山千里師（9期）、西村沙羅師（10期）、大河内大博先生、沼口諭先生
内容：
会話記録検討会（会話記録提出者：長島師、桐山師）
SV：大河内大博先生
講義「在宅医療とグリーフケア」
講師：大河内大博先生

■中部臨床宗教師会　第11回フォローアップ研修（第8回アミターバ連続講座）
○2017年7月1日（水）15時30分 ～ 20時00分
会場：沼口医院（メディカルシェアハウス・アミターバ）
　　1F多目的ホール及びカフェデモンクコーナー
参加者：12名
野々目月泉師(5期)、田中至道師(5期)、松本峰哲師（6期）、倉田恒雄師（7期）、坂野大徹師（7期）、釜田隆介師（9期）、隠一哉師（9期）、巖后顯範師（10期）、西村沙羅師（10期）、金田伊代師、大河内大博先生、沼口諭先生
内容：
会話記録検討会（会話記録提出者：倉田師、坂野師）

SV：大河内大博先生
講義「チーム医療におけるスピリチュアルケアの役割」
講師：大河内大博先生

■中部臨床宗教師会　第12回フォローアップ研修
（第9回アミターバ連続講座）
○2017年8月5日（金）15時30分 ～ 20時00分
会場：沼口医院（メディカルシェアハウス・アミターバ）
　　1F多目的ホール及びカフェデモンクコーナー
参加者：10名
野々目月泉師(5期)、坂野大徹師（7期）、服部あずさ師(8期)、桐山千里師（9期）、隠一哉師（9期）、巖后顯範師（10期）、西村沙羅師（10期）、南千代師（7期）、大村哲夫先生、沼口諭先生
内容：
会話記録検討会（会話記録提出者：服部師、西村師）
SV：大村哲夫先生
講義「死にゆく人の心理1」
講師：大村哲夫先生

■医療法人徳養会 沼口医院　第4回偲ぶ会
○2017年9月13日（水）15時00分～17時00分
会場：メディカルシェアハウス・アミターバ1F多目的ホール
主催：医療法人徳養会沼口医院
共催：中部臨床宗教師会
【プログラム】
1,開会の言葉
2,主催者挨拶
3,映像鑑賞
4,語らい
5,歌唱
6,ご家族様よりご挨拶
7,職員代表挨拶
8,「カフェデモンクで語る会」ご案内
9,閉会の言葉
10,記念撮影
【参加者】
ご遺族：21家族29名、臨床宗教師：4名、スピリチュアルケア師：1名、ボランティア：3名

■カフェデモンク　～水都・おおがき～
・日常のカフェデモンク
毎週月・水・金曜日（午後1時30分～午後4時00分）
・月例イベント
毎月カフェデモンクにて季節に合わせたイベントを開催

■ミニ症例検討会

先般、私が臨床心理士として関わっているパリアティブケア研究会岐阜において、外部　の他職種（臨床心理士他、医師・看護師・薬剤師・臨床宗教師）と共に公開事例検討会を開催した。この研究会は、緩和ケアに携わる臨床心理士で構成されている。

この公開検討会で発表された事例は、地域がん拠点病院の（緩和ケアチームに所属する）臨床心理士が関わったケースであったが、在宅医療に戻ったことを機会に、臨床宗教師も同一患者さんに関わった経緯があった。そのため公開検討会に先立ち、両機関での関わりの詳細を知り、多面的にケースを把握するため、関係者が集まりミニ事例検討会を開催した。出席者は両機関の関係者の他、ＳＶ的立場で大村哲夫先生にも来ていただいた。実際の事例を聞かせていただく中で、事例のまとめ方や患者さんへの視点、具体的な関わり方等について、臨床心理士と臨床宗教師の差異が感じられた。ただ、各々の関係者が、症例の患者さんについて、各々一生懸命に関わって下さったことがよく伝わってきた。当該患者さんと

関係者らの出会いの力が、関係者を一同に集め、今後に向けて様々な示唆を含んだ機会を与えてくださったように感じた。折しも時期はお盆の頃であり「初盆のようだ」と語り合った。

心のケアに関する事例は、一般的に、継続的なやりとりを詳細にまとめて検討する。そのような記録について、多職種間でじっくりと検討し合う機会はなかなかあるものではなく、ミニ事例検討会また当日の公開事例検討会も非常に貴重な機会であった。また自分であったら、心理士・宗教師の２つの立場をもつ者として、どのように関わるか非常に考えさせられた機会であった。最近、臨床宗教師を注目していただけるようになりつつあるが、そうした時こそ、一臨床家、また一人間として１つ１つの出会い（事例）から真摯に学んでいきたいと改めて思った。　（報告者：桐山千里）

■西濃がん診療研究会学術講演会

西濃地域のがん拠点病院と医師会が合同で開催している学術講演会において、上記に桐山師が報告された症例について報告させていただいた。

この症例は、病院と在宅、メディカルシェアハウス・アミターバと療養の場所が変わる中、それぞれの場所で臨床心理士を含めた緩和ケアチームと臨床宗教師を含めた在宅医療チームが関わった。私にとっては、病院と在宅における緩和ケアの連携の難しさ、臨床宗教師と臨床心理士のアプローチや視点の違いが明らかになると同時に、今後のいろいろな面で新たな連携の可能性が見いだせたことは意義深かった。また、がん治療についての報告や講演の中で、患者さんやご家族と向き合っている臨床宗教師や臨床心理士の生の姿の報告に医師を含めた多くの医療者から大きな反響があったのも嬉しい収穫であった。（報告者：沼口　諭）

■活動予定
第13回フォローアップ研修会: 2017年10月21日（土）
第14回フォローアップ研修会: 2017年11月25日（土）

関西臨床宗教師会

■関西臨床宗教師会発足理事会、総会（龍谷大学大宮学舎）
○2017年8月29日

総会のまえに谷山洋三先生から「臨床宗教師の倫理身近な差別」という講義を頂きました。

○人事
会　長　上田禮子
副会長　清水正彦、村尾雄志
相談役　深川宣暢、鍋島直樹、黒川雅代子、申英子、松本峰哲
理事　上田禮子、打本弘祐、大河内大博、清水正彦、中平了悟、西岡秀爾、村尾雄志、森崎雅好、吉田敬一、吉本清信
監事　西岡秀爾、野々目月泉
事務局長　中平了悟
会員数　正会員 23名、準会員 3名

規約を定めたあと、総会。吉本清信さんが総会の議長に選ばれ、理事の紹介のあと新会長のあいさつがあった。

「関西と言う地は宗教的に比叡山、高野山、本願寺など伝統ある仏教、また弁天宗、ＰＬ教、大本教、円応教、天理教、さらに西に行けば、金光教、黒住教など、さまざまな宗派、宗教が開かれた場所、超宗派の力をうたう臨床宗教師としては、大変刺激のある、また深く学び合える土地柄でもある。

さらに、歴史の古い奈良京都、商業都市の大阪、進取の精神の神戸などそこに住む人々は、多様な生活をしており、大阪では商業都市ゆえに汚れた裏側に社会問題が山積みされている。

ＤＶ，虐待、自殺、貧困、母子家庭など、臨床宗教師はターミナルケアにとどまらず、世の難渋を強いられている人々の心のケアに関しては新開拓をすべき所がたくさんあるような気がする。」（趣旨）

■会話記録検討会・事例報告会
○2017年8月30日　龍谷大学大宮学舎
会話記録提出者3名
あそかビハーラ病院の紹介と振り返り（打本弘祐師）

中国地方臨床宗教師会

■例会
○ 2017年7月19日14:00～　専明寺（下松市）
○ 2017年9月5日　14:00～　専明寺（下松市）
○ 2017年10月26日14:00～　専明寺（下松市、予定）

■活動
○ 7月9日　漢陽寺（周南市）
「ひと夏の身体診察　揺さぶれ医の心」
内容：山口大学医学部の学生主催の研修会講師

○2017年8月23日
「鹿野高齢者学級」
内容：鹿野地区の高齢者学級で地域医療の医師からのお誘いでオブザーバーとして参加。

九州臨床宗教師会

■フォローアップ研修会
○5月22日(月)9時～17時
場所：イエズスの聖心病院(熊本市中央区上熊本)
講師：ウァルデマール・キッペス先生（臨床パストラル教育研究センター理事長）
参加者：8名
内容：キッペス先生より、スピリチュアルケアとは何か、人間関係とコミュニケーション・傾聴等についての講義をいただいた。

■2017年　総会
○5月22日（月）17時～18時
場所：イエズスの聖心病院
参加者：9名
内容：前年の活動報告、会計報告、本年の活動内容、会計予算、会則の改正、会の運営の在り方等についての話し合いがおこなわれ、一年の活動内容が決定された。

■定例カフェデモンク
○6月17日（土）13時30分開店、16時閉店
場所：ルーテル大江教会（熊本市中央区大江）
講師：鳥飼美和子先生
参加者：10名
内容：日本臨床宗教師会副会長で京都大学名誉教授鎌田東二先生のご提案で、先生が理事長を務めておられる峨眉養生文化研修院の常務理事・鳥飼美和子先生にお見えいただき、気功のご指導をいただいた。

■フォローアップ研修会
○9月3、4日（日、月）1日目14時～18時30分、2日目7時～12時
場所：東本願寺熊本会館（熊本市中央区呉服町）
講師：伊藤文雄先生（元ルーテル神学校教授）
参加者：12名
内容：1日目は、「ブロックモデル」という、4～5名のグループに分かれ、グループに与えられたブロックを用いて、課題として用意されたモデルと全く同じものを作るというワークショップをおこなった。
　自分や他者の動き、コミュニ　ケーションやリーダーシップのありよう、作業の進め方等で自分がどのような動きをおこなっていたかを振り返ることによって、自分が客観視され、自覚していない自分自身の性質に気づかされるワークショップとなった。
　又、2日目は、会話記録検討会の他、協議の時間を設け、より会の活動が活性化する様、運営の在り方と、会則の改正についての意見を出し合った。

■熊本地震被災地支援
○カフェ・デ・モンク開店日
○7月10日（月）9時開店～12時閉店
場所：特別養護老人ホーム水晶苑（宇城市豊野町糸石）
参加者：臨床宗教師5名　サポー　ター2名　施設デイサービス参加

○7月24日（月）14時開店～16時閉店
場所：益城町広崎仮設団地集会所（上益城郡益城町広崎 ）
参加者：臨床宗教師7名　サポーター2名　来店者17名

○8月21日（月）14時開店～16時閉店
場所：益城町木山仮設団地東集会所（上益城郡益城町木山）
参加者：臨床宗教師9名　サポーター2名　来店者23名

○9月11日（月）14時開店～16時閉店
場所：益城町広崎仮設団地集会所（上益城郡益城町広崎）
参加者：臨床宗教師7名　サポーター1名　来店者15名

　熊本地震被災地の状況は、現在も4万5000人以上の方々が避難生活を続けられている。
　益城町では、2019年12月末までに復興住宅を建設する予定であるが、長期に渡り不安定な避難生活が続く。
　九州臨床宗教師会では、引き続き、1ヶ月に1～2回のペースで仮設団地にてカフェ・デ・モンクを開店する予定である。

■九州北部豪雨被災地支援
　7月5日から6日にかけて降り続いた豪雨は、九州北部に甚大な被害をもたらした。
　亡くなられた方は37名にのぼり、現在も4名が行方不明となっている。家屋の被害は全壊288棟、半壊1079棟等となっており、現在も避難生活を余儀無くされている方が多数おられる。
　九州臨床宗教師会では、7月8日に物資の搬送と情報収集をおこない、7月13日より避難所にてカフェ・デ・モンクを開店した。

○7月13日（木）
場所：サンライズ杷木（福岡県朝倉市）杷木中学校（福岡県朝倉市）
参加者：臨床宗教師5名　サポーター3名

○7月18日（火）　場所：サンライズ杷木
参加者：臨床宗教師5名　サポーター2名
○7月21日（金）　場所：サンライズ杷木
参加者：臨床宗教師5名　サポーター1名
○7月25日（火）　場所：サンライズ杷木
参加者：臨床宗教師4名　サポーター1名
○7月26日（水）　場所：サンライズ杷木

参加者：臨床宗教師2名
○7月27日（木）　場所：サンライズ杷木
参加者：臨床宗教師1名
○7月28日（金）　場所：サンライズ杷木
参加者：臨床宗教師4名　サポーター2名
○8月3日（木）　場所：サンライズ杷木
参加者：臨床宗教師4名　サポーター1名
○8月4日（金）　場所：サンライズ杷木
参加者：臨床宗教師5名　サポーター3名
○8月7日（月）　場所：サンライズ杷木
参加者：臨床宗教師4名　サポーター2名
○8月8日（火）　場所：サンライズ杷木
参加者：臨床宗教師1名
○8月9日（水）　場所：サンライズ杷木
参加者：臨床宗教師1名
○8月10 日（木）　場所：サンライズ杷木
参加者：臨床宗教師3名　サポーター2名
○8月14日（月）　場所：サンライズ杷木
参加者：臨床宗教師2名
○8月22日（火）　場所：サンライズ杷木
参加者：臨床宗教師1名
○8月23日（水）　場所：サンライズ杷木
参加者：臨床宗教師1名
○8月24日（木）　場所：サンライズ杷木
参加者：臨床宗教師6名　サポーター3名
○8月29日（火）　場所：サンライズ杷木
参加者：臨床宗教師5名　サポーター1名
○9月1日（金）　場所：サンライズ杷木
参加者：臨床宗教師4名　サポーター1名
○9月7日（木）　場所：サンライズ杷木
参加者：臨床宗教師4名
○9月29日（金）
場所：林田仮設団地集会所（朝倉市杷木小学校内）
参加者：臨床宗教師4名

朝倉市杷木地区の状況は、避難所が閉鎖され、40～50棟の仮設団地が完成（仮設住宅は準次建設中）している。現在、カフェ・デ・モンクは仮設団地の集会所にて開いており、これからは、継続的に1ヶ月に1回のペースで開店する予定である。

仮設団地での開店に際しては、自治会長の篤いご要望と、ご協力が支えとなり運営されているが、朝倉市の公共施設で活動が早期に行えたのは、会員の知人の力添えがあったことと、東日本大震災以来、近年の臨床宗教師の被災地での活動実績が、自治体に認められたことによるものと思われる。

今後の活動予定

■熊本地震被災地カフェ・デ・モンク
○10月18日（水）13時30分集合・準備、14時開店～16時閉店・後片付け
場所：益城町木山仮設団地東集会所（益城町木山866-1）
　　益城町広崎仮設団地集会所（益城町広崎11 60-1）
　　（2ヵ所同時開催）
＊第12回実践宗教学寄附講座の実習を兼ねて開店する。

■九州北部豪雨被災地カフェ・デ・モンク
○10月21日（土）15時30分集合・準備、16時開店～18時閉店・後片づけ
場所：林田団地集会所（福岡県朝倉市杷木林田330-1杷木小学校内）

■第12回東北大学実践宗教学寄附講座in熊本　開催
主催　東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座
共催　九州臨床宗教師会
＜全体会1＞2017年10月17日（火）～10月19日（木）
場所：東本願寺熊本会館(熊本市中央区呉服町2-5)
＜全体会2＞2017年11月14日（火）～11月15日（水）
場所：東本願寺熊本会館(熊本市中央区呉服町2-5)
＜全体会3＞2017年12月18日（月）～12月19日（火）
場所：東本願寺熊本会館(熊本市中央区呉服町2-5)

カフェデモンク宮崎　OPEN！

宮崎県児湯郡高鍋町包括支援センター内に、支援者のためのカフェデモンクがOPENしました。東北大学臨床宗教師研修を修了したモトサンチェズ・ミカさんを中心に活動しております。

実践宗教学寄附講座活動報告

《2017年度後期開講科目》

「スピリチュアルケア」（谷山）、「スピリチュアリティ」（高橋）、「ケアの実践と宗教者」（オムニバス）

《発表・講演等》

5月6日　鈴木岩弓「通過儀礼は何のため？—宗教民俗学的視座—」放送大学の集い、気仙沼市地域交流センター「ワンテンビル」

5月10日　鈴木岩弓「死者を忘れない」、生と死を考える連続講座「寄り添いと看取り」真宗大谷派大垣別院

5月15日～7月20日　谷山洋三　第11回臨床宗教師研修、曹洞宗統禅寺（石巻市）・浄土宗蓮光寺（仙台市）ほか、スーパーバイザー

5月27　谷山洋三「スピリチュアルケアにおける臨床宗教師の役割」平成29年度日本死の臨床研究会東北支部会特別講演会（仙台医師会）

5月28日　高橋原「日本における仏教的スピリチュアルケア」、第59回印度学宗教学会学術大会、東北大学

5月28日　鈴木岩弓「Moocからみた現代人の死生観」印度学宗教学会第57回学術大会、東北大学

5月30日　谷山洋三「臨床宗教師の倫理」龍谷大学大学院実践真宗学研究科2017年度臨床宗教師研修全体会2東北実習（西本願寺仙台別院教化センター）

6月7日　鈴木岩弓「震災被災地から超高齢多死社会へ—『臨床宗教師』の誕生とその展開—」民進党仏教議員連盟総会、参議院議員会館B102会議室

6月15日大村哲夫「宗教の復権を支える：臨床宗教師という運動から」 曹洞宗北海道管区現職研修会

6月16日　谷山洋三「悲嘆に向き合う臨床宗教師の視点」上智大学グリーフケア研究所2017年度グリーフケア公開講座『悲嘆』について学ぶ（上智大学大阪サテライトキャンパス）

6月21日　谷山洋三「スピリチュアルケア」「会話記録（スーパービジョン）」龍谷大学大学院実践真宗学研究科2017年度臨床宗教師研修（龍谷大学）

6月22日　鈴木岩弓「“死者の記憶”」、上智大学2017年度春期グリーフケア公開講座「『悲嘆』について学ぶ」上智大学12号館502教室

6月23日　高橋原「臨床宗教師・傾聴・儀礼—《幽霊》への対応から考える—」愛宕薬師フォーラム 、別院真福寺地下講堂

6月24日 Yozo TANIYAMA, Interfaith Chaplaincy Movement in Japan After the Tsunami, Topic 3 International Symposium: Smart Aging, Tohoku Forum for Creativity Thematic Program 2017, Aging Science: from Molecules to Society; Institute of Development, Aging and Cancer, Tohoku University

7月5日 谷山洋三「グリーフケア ～感情表出の援助のためのスピリチュアルケア」第45回岩手県院内臓器移植コーディネーター研修会（アイーナ盛岡）

7月8～9日 谷山洋三「日本的なスピリチュアルケアを目指して」2日研修会、臨床パストラル教育研究センター北海道ブロック研修会・藤女子大学QOL研究所（藤学園キノルド館（札幌市））

7月10日　谷山洋三「医療現場におけるスピリチュアルケア～公共空間で活動する臨床宗教師～」北海道東北臨床宗教師会主催講演会（道の駅あさひかわ）

7月10日　鈴木岩弓「日本における半跏趺坐地蔵に対する信仰の実態」第一届中国曹洞宗禅学研究国際研討会、曹山宝積寺

7月11日 大村哲夫「公共空間中宗教人員的社会貢献与倫理規範：”臨床宗教師”的産生与発展」中国首届曹洞宗国際禅学検討会（中国撫州市）

7月18日　高橋原「東日本大震災と臨床宗教師」、平成29年度宗教法人事務担当者研修会(北海道・東北地区)、盛岡市エスポワールいわて

7月20日～11月30日　谷山洋三　臨床宗教師研修資格認定集中コース、浄土宗蓮光寺（仙台市）、スーパーバイザー

7月23日 鈴木岩弓「memento mori—現代日本人の死生観—」東北大学110周年関東交流会講演会、サピアタワー５F

7月28日　谷山洋三「医療における臨床宗教師の可能性」全国国立病院院長協議会関東信越支部平成29年度第4回勉強会（東京八重洲ホール）

7月30日　鈴木岩弓「死後世界と宗教—臨床宗教師の誕生と展開—」第４回西本願寺医師の会、築地本願寺第二伝道会館

8月5日　大村哲夫「死にゆく人の心理Ｉ」沼口医院連続講座講演、沼口医院

8月5日 大村哲夫 中部臨床宗教師会FU研修 講師 会話記録SV 沼口医院

8月6日　谷山洋三「スピリチュアルケアと臨床宗教師」「グリーフケアと宗教」「スピリチュアルなセルフケア」、仙台グリーフケア研究会「グリーフケア担い手養成講座」第3期第3講、仙台医師会館

8月17日　大村哲夫　臨床宗教師と臨床心理士のミニ症例検討会　オブザーバー 沼口医院

8月27　谷山洋三、得丸定子、奥井一幾、今井洋介、森田敬史、郷堀ヨゼフ、カール・ベッカー、高橋原、鈴木岩弓「経文聴取により悲嘆は緩和されるのか？～心理尺度と生化学指標による実証～」仏教看護・ビハーラ学会第13回年次大会（淑徳大学千葉キャンパス）

8月27　中原登世子、鍋島直樹、谷山洋三「在宅ALS患者と妻の死別の過程に同行した僧侶の関わりの軌跡～贈り合う関係の支え～」仏教看護・ビハーラ学会第13回年次大会（淑徳大学千葉キャンパス）

8月27日　高橋原「現代における宗教者の役割—臨床宗教師と心のケア」天台真盛宗伊勢教区教学法儀講習会、津市

8月29～30日 谷山洋三 関西臨床宗教師会フォローアップ研修、龍谷大学、スーパーバイザー

8月30日–31日　大村哲夫「臨床宗教師の理念と倫理」「死の体験」「傾聴」「ロールプレイ」愛知学院大学大学院臨床宗教師養成講座

8月31日～9月1日 谷山洋三 「臨床宗教師とスピリチュアルケア（１）（２）」「学外実習の心構え（１）（２）」愛知学院大学大学院文学研究科宗教学仏教学専攻臨床宗教師養成講座（愛知学院大学）

9月2日　谷山洋三「グリーフケアについて」がんとむきあう会主催がん患者さんの在宅医療連携のための多職種研修会（元ちゃんハウス（金沢市））

9月10日　谷山洋三、森田敬史、張晨陽「臨床宗教師の活動における困難とその対応」2017年度第10回日本スピリチュアルケア学会記念学術大会（京都文教大学）

9月11-12日日　谷山洋三「臨床宗教師の理念・倫理」「スピリチュアルケア」「宗教的ケア」「グリーフケア」「グループワーク（ロールプレイ）」種智院大学臨床密教センター第2回臨床宗教師養成講座全体会１、石山寺（大津市）

9月10日　高木慶子、島薗進、柏木哲夫、谷山洋三（座長）第10回大会記念シンポジウム「スピリチュアルケア　これまでの10年、これからの10年」2017年度第10回日本スピリチュアルケア学会記念学術大会（京都文教大学）

9月17日　高橋原「日本における仏教スピリチュアルケアの海外への紹介の試み」日本宗教学会第76回学術大会、東京大学

9月18日　谷山洋三（シンポジウム）「臨床宗教師による宗教的資源の活用」上智大学グリーフケア研究所主催国際シンポジウム「スピリチュアルケアの現代的展開」（上智大学）

9月28-29日 谷山洋三 北海道東北臨床宗教師会第3回フォローアップ研修、茂庭荘（仙台市）、スーパーバイザー

9月28-29日　大村哲夫「事例で考える倫理2017」・会話記録SV　北海道東北臨床宗教師会FU研修、仙台市茂庭荘

10月1日 鈴木岩弓「死生観はいま」真如苑世界宗教セミナー、友心院

10月7日　谷山洋三（講演座長）カール・ベッカー「日本人の死生観にふさわしいケアとは」第41回日本死の臨床研究会年次大会、にぎわい交流ホールAU（秋田市）

10月11日　鈴木岩弓「日本人の民間信仰」西本願寺ビハーラ僧養成研修会、西本願寺伝道院

10月14日 谷山洋三・今井洋介「経文聴取による喪失悲嘆ストレスケア–ペットロス経験者を対象にした実証実験より–」第30回日本サイコオンコロジー学会総会・第23回日本臨床死生学会総会合同大会、品川区立総合区民会館

10月17日～12月19日　第12回臨床宗教師研修、東本願寺熊本会館、スーパーバイザー

10月22日　谷山洋三「臨床宗教師の社会的意義　スピリチュアルケアと宗教的ケア」真宗大谷派林正寺報恩講記念法話

10月23日　谷山洋三「臨床宗教師の特徴、役割、資質」平成29年度千

葉大学履修証明プログラム「地域療養設計管理者養成プログラム」千葉大学医学部附属病院

10月28日　谷山洋三「看取りにおけるスピリチュアルケア」加美郡在宅医療・介護連携推進協議会研修会、色麻町保健福祉センター

10月30日　谷山洋三「宗教的ケア」「会話記録（スーパービジョン）龍谷大学大学院実践真宗学研究科2017年度臨床宗教師研修（龍谷大学）

《論文・寄稿》

谷山洋三「臨床宗教師との連携による未来医療の可能性」『日本統合医療学会誌』Vol.10, No.1、2017.5、158-163

谷山洋三「臨床宗教師の展望と課題」『全仏』629号、2017.5、3-4

谷山洋三（事典項目）「臨床宗教師活動とコミュニティ再生」伊藤守ほか編『コミュニティ事典』春風社、2017.6、680-681

谷山洋三「臨床宗教師の可能性」日本佛教学会『仏教における実践を問う（二）––社会的実践の歴史と展望––』法蔵館、2017.8、123-143

谷山洋三「スピリチュアルケアの担い手　臨床宗教師とその公共性」『Emergence　創発』（東京基督教大学共立基督教研究所）14巻5号、2017.10、43-61

鈴木岩弓「比叡山延暦寺大霊園にみる永代供養墓」『論文集（第２事業年度）—冠婚編・葬祭編—』、冠婚葬祭総合研究所、2017.5、pp.36-46

鈴木岩弓「臨床宗教師の誕生とこれから」『全国公立病院連盟会報』第68号、全国公立病院連盟、2017.8、pp.82-98

鈴木岩弓「饕餮」『すいとく』第757号、竹駒神社、2017.8,　p.1

鈴木岩弓「祖先崇拝」月本昭男編『宗教の誕生—宗教の起源・古代の宗教—（宗教の世界史１）』山川出版社、2017.8、pp.84-100

高橋原「宮城県津波被災地における心霊現象と宗教者の対応〔１〕」『心霊研究』No. 844、2017.6.1.　pp. 9-19.

高橋原「宮城県津波被災地における心霊現象と宗教者の対応〔２〕」『心霊研究』No. 845、2017.7.1.　pp. 8-22.

《新聞報道等》

中外日報（2017年5月10日）宗教者と医療者が病棟カフェで協働　上尾中央総合病院　終末期患者に憩いの場提供

福井新聞（2017年5月25日）　悩み、苦しみに寄り添う臨床宗教師

上毛新聞（2017年6月5日）　心寄せる行動追究を 信頼される宗教者（井出存祐）

【TV】BSフジ　LIVE　プライムニュース（2017年6月30日）研究…「臨床宗教師」　高齢多死時代の死生観

河北新報（2017年7月12日）病棟のお坊さん　生と死に向き合う　震災機にケアの道へ

河北新報（2017年7月13日）病棟のお坊さん　生と死に向き合う　思いを次代へつなぐ

中外日報（2017年7月21日）「つながり生きている」　臨床宗教師のいるホスピス型共同住宅　大垣に開設、１年半　実感する手応え

上毛新聞（2017年7月23日）宗教者の関わり再考を（井出存祐）

中外日報（2017年8月2日）　臨床宗教師の資格は必要か 相論対論　中村仁一氏（日常的教化こそ重要）　沼口諭氏（制度化で信頼を得る）

AERA（2017年8月7日）（大特集　仏教ビッグバン）そばに居続ける勇気を持つ　新しい世代が実践する「宗教者」とは　（金田諦晃さん）

【TV】フジテレビ　みんなのニュース（2017年8月16日）穏やかな死への試みがん患者と臨床宗教師

宮崎日日新聞（2017年8月18日）　信じるもの生きる糧　寄り添う心宗派問わず（モトサンチェズ・ミカさん）

上毛新聞（2017年9月5日）集落や祭りが心育む（井出存祐）

産経新聞夕刊（2017年9月11日）臨床宗教師 来年3月資格化

医療経営CB news（2017年9月15日）終末期医療、臨床宗教師の役割は？ - 高久史麿氏、アジア大洋州医師会連合で講演

仏教タイムス（2017年9月28日）　種智院大臨床密教センター　頭でなく「心」で感じて 臨床宗教師養成2期目がスタート　真言僧の役割を実践探求

【TV】NHK　BS「プレミアムカフェ」（2017年10月30日）シリーズ生と死を見つめて「新藤兼人95歳 人生との格闘果てず」（ゲスト：鈴木岩弓）

【TV】NHK　BS「プレミアムカフェ」（2017年10月31日）シリーズ生と死を見つめて「百万回の永訣 柳原和子がんを生き抜く」（ゲスト：鈴木岩弓）

コラム　臨床宗教師の役割

—「懐疑派」にどう答えますか？—

高橋　原

医師・養護老人ホーム付属診療所所長
中村　仁一氏
沼口医院院長・日本臨床宗教師会理事
沼口　諭氏
臨床宗教師の資格は必要か
懐疑　日常的教
推進　制度化

8月2日の中外日報に、「相論対論 臨床宗教師の資格は必要か」という記事が掲載されました。「推進派」として「制度化で信頼を得る」という見出をつけられた沼口諭医師のインタビューと並べられたのが、高齢者医療に携わる中村仁一医師による「日常的教化こそ重要」という「懐疑派」のコメントでした。この懐疑派からの問いかけを手がかりに考えてみたいと思います。

臨床宗教師は、縁もゆかりもない人の死の場面にこだわっているようだが、むしろ日頃、檀家の人々に対して生き死にについての心構えを説くべきではないか。自分は、苦は思い通りにならないことであるということを仏教書から学んで腑に落ち、生きる指針を得た。何よりも重要なのは「魂の救済をするのは本人にしかできない」ということである。

このような趣旨の文章に続けて、中村氏は「臨床宗教師は傾聴という手段を取るが、自分しか自分を救えないということに、気付かせるような傾聴の仕方ができているのか。生き死には、簡単な問題ではない。聞いてもらって楽になったという類の話ではない。」と問いかけています。

臨床宗教師のみなさんはこれにどう答えるでしょうか。このような主張は、宗教者本来の役割について繰り返されてきたいわば「正論」であり、私自身も共感するところがあります。「ホーム」と「アウェイ」は両輪であり、「アウェイ」での活動が「ホーム」での力を鍛えるとか、死や看取りに寄り添うということは結局、生きることに宗教者としてどう寄り添うかという問題だといったことも、折りに触れてお話してきました。

中村医師に対する色々な反論の糸口を思いつくことができるでしょう。聞いてもらって楽になればそれでいいじゃないか。もっと深い部分はその先にある。「傾聴」をテクニック的なことと考えてもらっては困る。自分を救えるのは自分だけだというのは一つの考えかたで…等々。しかし、大学教員が語る一般論ではなく、またそれぞれの宗教の教えに照らしての説明も脇において、臨床宗教師の方々は、では自分は何をしているのか、自分に何ができるのかという視点で問いを受け止めることになるのではないでしょうか。

3月にがんで亡くなった、僧侶であり日本臨床宗教師会の顧問も務められていた田中雅博医師が、「自分のいのちを超えた価値」、いわば「その人の宗教」に気付いてもらう手助けをするために傾聴すると語られていたのを思い出します。中村医師にしても、田中医師にしても、自分で気付くということを重視しているようです。これはスピリチュアルケアの基本的アプローチですが、では、宗教者は気づいてもらうべき内容についてあらかじめ答えを持っているのでしょうか。答えを知っているなら積極的に教えてあげるべきではないでしょうか。逆に、臨床宗教師は答えを知っていながら、それが相手の口から出てくるのを待っているべきなのでしょうか。

踏み込むのか留まるのか、何かを伝えるにせよどのような言葉で表現するのか、言葉なしで伝わるものを信じるのか。これには、臨床宗教師の器、力量に応じた決断が関わると思いますが、経験によって磨かれていくセンスでもあるでしょう。

中村医師の問いにどう答えるのか。ずるいかもしれませんが、これは教員らしく、臨床宗教師の皆さんへの宿題とさせていただきます。

寄附者

東北大学文学研究科実践宗教学寄附講座は宗教界など各方面からの寄附金によって維持運営されています。寄附者の方々をここに記し感謝申し上げます。

日本基督教団
南西ドイツ宣教会
(EMS: Evangelical Mission in Solidarity)
宮城県宗教法人連絡協議会
全真言宗青年連盟
日本ナザレン教団
宗教法人みんなの寺
融通念佛宗音羽山観音寺
浄土真宗本願寺派真覚寺
真宗大谷派常念寺
天台真盛宗新光寺
天台真盛宗西念寺
融通念佛宗西方寺
曹洞宗島田地蔵寺
真言宗智山派大聖寺
龍谷大学実践真宗学研究科教員有志
宗教法人孝道山本仏殿
宗教法人妙光寺
医療法人徳養会
宗教法人平間寺
日本宗教連盟
真宗教団連合
日蓮宗実相寺
日蓮宗妙興寺
清水寺
秩父神社
竹駒神社
神習教
念法眞教
日蓮宗立像寺
曹洞宗崇禅寺
聖観音宗浅草寺
日蓮宗法音寺
曹洞宗洞林寺
應典院秋田光彦
天台宗円満寺
明川寺
有限会社仏教企画
曹洞宗北海道管区
密教２１フォーラム
日蓮宗高応寺
その他の方々
公益財団法人世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会
立正佼成会一食平和基金
宗教法人中山身語正宗
真如苑
公益財団法人 新日本宗教団体連合会
一般財団法人　ありがとうインターナショナル
日本キリスト教協議会エキュメニカル震災対策室
財団法人東北ディアコニア
特定非営利活動法人神道国際学会
特定非営利活動法人世界開発協力機構

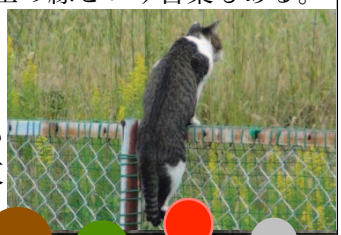
当講座は、全日本仏教会の「推薦団体」、日本宗教連盟の「後援団体」として認定を受けています。
ご寄附のお申し込みにつきましては下記までお問い合わせください。なお、寄附金には法人税法・所得税法による税制上の優遇措置があります。

東北大学文学研究科内実践宗教学寄附講座
TEL: 022-795-3831(FAX兼)
E-mail: j-shukyo@g-mail.tohoku-university.jp

編集後記

九州、とりわけ長崎のネコは尻尾が曲がっているのが多いと言うが、もちろんそうでないのもいる。熊本は暑いものだと思い込んでいたが、阿蘇のあたりに行くと夏はクーラー要らずで冬には氷点下になるそうだ。実際に足を運んでみないとわからないことというのは多い。路面電車が走るのどかな街並みも新鮮であった。熊本で見た仮設住宅のたたずまいは宮城県で見てきたとおりのものであったが、ひとりひとりが違う人生を生きているのはいうまでもない。所変われば品変わり、「宗教者です」という自己紹介の受け取られ方も時と場所と相手によって変わってくるものだろう。

熊本での臨床宗教師研修の実現はさまざまな機縁、奇縁によるものであった。ここで生まれた新たな縁がつながり次に活かされていくことになれば幸いである。機縁というのは仏教語だそうだ。袖振り合うも多生の縁という言葉もある。「他生」という書きかたの方が、仏教的な風味が増す気もするが、熊本でフラッと立ち寄った店で、お酒を出してくれたご主人は、いかなる仏縁にてやはべるらん、東北の人であった。（た）



東北大学実践宗教学寄附講座ニュースレター第12号
編集・発行 東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座
2017年11月1日（第1刷）
（このニュースレターのPDF版は右記サイトから閲覧できます）

各地臨床宗教師会連絡先

北海道東北　ht.rinshushikai@gmail.com
関東　kanto.rinsyo.syukyoshi@gmail.com
中部　tanaka.amitabha@gmail.com
関西　kansai_rinshoshukyoshikai@yahoo.co.jp
中国地方　ch5rinshu@yahoo.co.jp
九州　k.rinsyu@gmail.com

日本臨床宗教師会事務局
sicj@g-mail.tohoku-university.jp

実践宗教学寄附講座

主任教授 木村敏明　（兼任：宗教学教授）
教授　高橋　原
准教授　谷山洋三　（兼任：宗教学准教授）
助教　大村哲夫　（兼任：宗教学助教）
顧問　鈴木岩弓　（兼任：教養教育院 総長特命教授）

980-8576
宮城県仙台市青葉区川内27-1
東北大学文学研究科内
実践宗教学寄附講座
022-795-3831(T/F)
j-shukyo@g-mail.tohoku-university.jp
http://www2.sal.tohoku.ac.jp/p-religion/